

モノタイプ社タイポグラフィ・イベント 「Type&」レポート

TYPE & タイプアンド

書体会社モノタイプが日本で主催するタイポグラフィ・イベント「Type&」が2015年11月20日、21日に開催されました（2014年の様子は本誌06号を参照）。今回行われた4つのセッションの中から、日本で見かける欧文表記に関するセッションの様子を採録します。

取材・文：編集部

Text by Typography magazine

会場撮影：木下治子

Photographs by Haruko Kinoshita

協力：Monotype

Cooperation by Monotype

PROGRAM

Type& 2015

<http://www.typeand.net/2015/>

日時：2015年11月20日（金）、
21日（土） 13:30-18:00
場所：日本科学未来館

11月20日
13:30-15:30

1

書体視認性：
MIT AgeLabと
Monotypeの共同研究

Nadine Chahine
ナディン・シャヒン



2012年からMIT AgeLabとともに書体の視認性について研究してきたMonotype。タイプディレクターのナディン・シャヒンが、自動車の運転時など秒速で文字を読む環境下での書体視認性についての研究を発表。

11月20日
16:00-18:00

2

英語の情報、
読者に伝わる組み方とは

田代眞理
小林章



Monotype タイプディレクターの小林章が、実務翻訳家の田代眞理をゲストに迎えた対談。英文表記の約束事と読まれるときのメカニズムを考え、読者に情報が無理なく伝わるにはどうしたらよいか、豊富な画像とともに解説。

11月21日
13:30-15:30

3

ロゴの多言語化：
デバナガリとアラビア文字

Vaibhav Singh
バイブハブ・シン
Nadine Chahine
ナディン・シャヒン
小林章



インド若手書体デザイナーの中でも注目を浴びているバイブハブ・シンと、Monotype タイプディレクターのナディン・シャヒンが普段目にしていないロゴを多言語化し、そのロゴを見ながら小林章が話を聞くセッション。

11月21日
16:00-18:00

4

鳥海修 ×
藤田重信 ×
小林章



株式会社写研で出会い、現在ではそれぞれの場所で活躍する書体デザイナー3名によるフリートーク。写研時代の思い出話から、書体デザインの過去、現在、未来まで、それぞれの思いや考えを自由に話った2時間。

SESSION 2

英語の情報、読者に伝わる組み方とは

田代眞理×小林章

日本で最近気になること

小林 (以下、K) : 最近、日本で英文の案内が増えてきた気がします。これ (画像1) はJR京都駅です。いろいろな情報が英語と日本語で表記されている状態です。これ (画像2) はJR山手線の駅ですね。緊急のボタンは非常に大事なものですから、英語でも表示した方がいいわけですね。

アメリカやヨーロッパで見る日本語

K : ちょっと視点を変えて、私がアメリカやヨーロッパにいるときに見た日本語をお見せします。これ (画像3) はアトランタ空港です。日本語で読めるんだけど、バランス的かどうかというのがちょっと気になるんですね。これ (画像4) はフランクフルト空港。いろんな言語で書かれていますけど、みなさん、なんで笑ってるんですか (笑)? デザイナーでなくても「何となくおかしいかな?」と思うんですね。

いま私たちは日本語を読めるという前提ですが、海外に行ったらこんな表示がある。逆に、海外の人が日本に来たら、こういうことになっているケースが多いんじゃないか。そんなことを私が実務翻訳家の田

田代眞理 Mari Tashiro

1990年代より日英・英日の実務翻訳、校閲、編集、校正に携わる。英文の会社案内、各種報告書・冊子などの制作プロジェクトにも多く参加し、欧米人編集者とのやり取りを通じて英文表記スタイルへの理解を深めるようになる。文章の見た目が読みやすさや伝わり方に大きく影響するという体験をしたことから、組版にも強い関心を寄せるようになる。近年ではタイポグラフィ関連の翻訳も手がけている。

小林章 Akira Kobayashi

2001年に独ライノタイプ社 (2013年に社名をモノタイプに変更) のタイプディレクターに就任。現在、ドイツ在住。書体の品質管理のほか、自身のオリジナル書体の制作、有名な書体デザイナーであるヘルマン・ツァップ氏やアドリアン・フルティガー氏と共同での書体開発、過去の書体ファミリーの改刻、企業制定書体 (コーポレートタイプ) の開発を担当している。欧米、アジアを中心に講演やフォントデザインワークショップを行っているほか、世界的なタイプフェイスデザインコンテストの審査員も務めている。



画像1

代眞理さんと3~4年やりとりしていたので、今回の話ができるなと思ったわけです。では、ここから実例を見ていきましょう。

日本語書体付属のローマ字で英文を組むと読みづらい

K : 私があくまでもデザイナー目線として気になっているのは、日本語の書体の中に入っているローマ字で英語の文章が組まれていることです。

さっきの山手線の非常停止ボタンの表示を見てください (画像5)。Emergency のg

やyが非常に寸詰まりだし、stopのoとpの違いのなさが気になりますね。欧文書体の読みやすさはどこにあるのかというと、上下にでこぼこがあるからなんです。ここではgとyしか下に飛び出していないんですが、上に飛び出すfやhもあるから読みやすさの手助けになっているのではないのでしょうか?

田代 (以下、T) : そう思います。詰まった感じもあるし、trainとstopの間のスペースが空きすぎているのも気になっています。

K : これ (画像6) も日本語書体の中のローマ字が使われていると思うんですよ。「Kichijoji」って書いてありますが、jが下に飛び出さないし、左側に思い切り鍵状に曲がっていますよね。私が読みやすいと思う欧文というのは、iもjもほとんど同じ幅 (画像下) で、jが曲がっているから空間をたくさんとるわけではないんですね。縦棒の



画像2



画像3



画像4



画像5



画像6

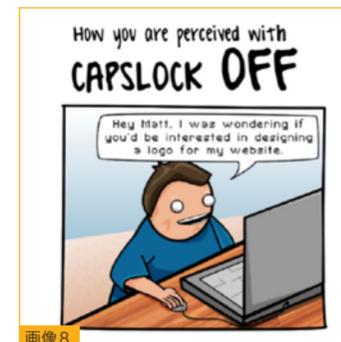
間のリズム感がちゃんとできていると読みやすいと思うんです。

T : 以前にパンフレットの校正を頼まれたときに、すごく読みづらいページがあって、データを見たら日本語に付属しているアルファベットで組まれていました。ちょっと幅が広がっていたり、下にのびる部分が短かったりして読みづらいと思ったので、欧文専用の書体を使うようお願いをしました。

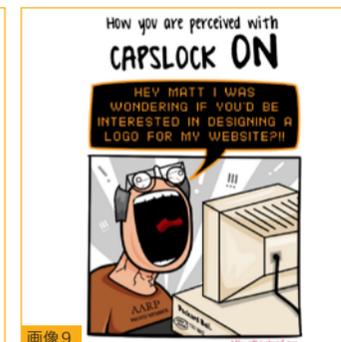
K : これ (画像7) はバーデンバーデンというドイツにある保養地の名前です。Badenの間をハイフンでつないでいます。同じ横棒でもバーデンバーデンからハンブルクをつなぐ鉄道の場合は、ちょっと細めで少し長めのダッシュ (ダッシュ) という記号を使います。ダッシュは「〇〇から〇〇」という意味なので、「月曜日から金曜日」というときに「から」の意味であるダッシュを使うわけです。



画像7



画像8

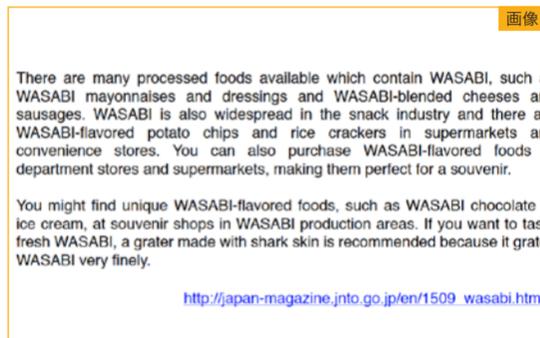


画像9

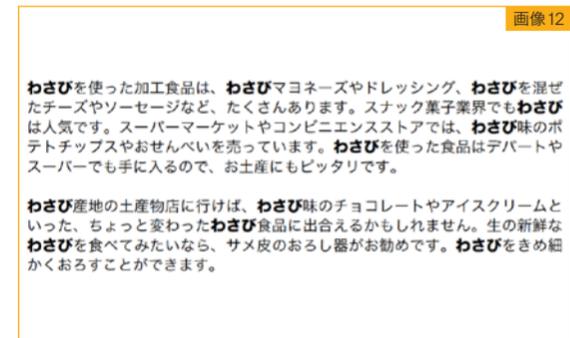
http://theoatmeal.com/comics/minor_differences



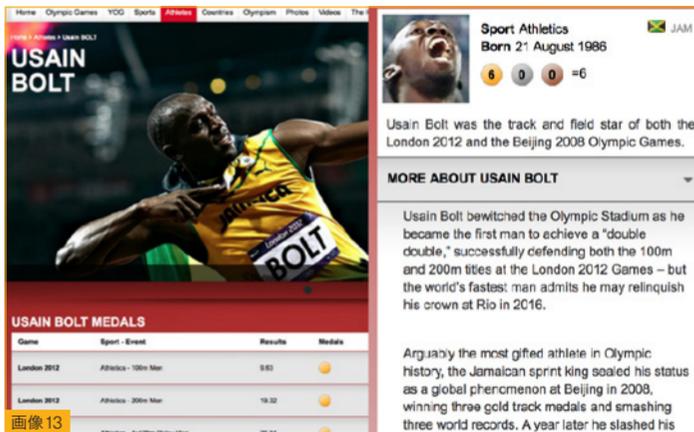
画像10



画像11



画像12



画像13 http://www.olympic.org/athletes

ちなみにワサビは英語になっているので、大文字表記にする必要はなくて、文頭なら大文字小文字、文中に入る場合は英語の単語と同じく小文字で表現してかまわないんです。ただ、外国人全員がワサビを知っているわけではないので、そういう場合は外国語由来の表記としてイタリックにします。このテキストだとワサビがけっこう出てきて、毎回イタリックにすると見た目にうるさくなるので、最初に登場するときだけイタリック、あとは普通に小文字にしていれば大丈夫です。

また、和食のメニューで見かける、「比内」や「能登」は地名なので、最初の文字だけ大文字にすればいいんです。「NOTO」と大文字にすると特別な何かの略語っぽい印象になるので、Nだけ大文字にします。



画像14

日本人の名前を「姓・名」の順で、姓の部分だけ大文字で表記することがあります。ただ、これが文章中に毎回出てくると、かなり読みづらいことになります。

オリンピックの放送を見ていたときに姓が大文字になっていることに気づいたので、国際オリンピック委員会のウェブサイトを見てみると、見出しや選手名のリストでは選手の姓だけ大文字になっています。

K: 選手名は全部大文字で組んであったりしますよね。見出しだから全部大文字。ポルト選手の生い立ちが書いてある文章中(画像13)では普通の表記です。これがスマートな解決策。絶対に大文字にしないといけないのではなく、使い分けるといいですね。こういう例がいい例だと思います。

いつもロゴの表記どおりにする必要はない

T: これ(画像14)は地下鉄の駅にある行き先案内板です。たぶん東京スカイツリー自体が大文字表記と決まっているので、一重の引用符に入れて全部大文字にしているんですね。

大文字が一概におかしいとは言えないんですけど、ここではデザインを伝えるのではなく、「スカイツリー方面はこちらですよ」という情報を伝えるわけですから、大文字に固執する必要はないと思います。

あと、スカイツリーのところだけ引用符に入っていると、スカイツリーが押上の別称、ニックネームっぽい感じがして、ちょっと違和感があります。丸カッコに入れるなどして、引用符を使わない方がいいですね。

K: そういえば、アマゾン(amazon.com)って会社のロゴとしては全部小文字ですよ？でも、文章の中ではAだけ大文字の標準表記にしますよね。

T: 「社名の大文字表記を標準表記にしているだけませんか？」とお客様にお願いしたとき、そのお客様から「社名表記は有価証券報告書の表紙に書かれている社名で判断しているんです」と言われたことがあります。

海外の企業ではどうしているのかな？と思って調べてみました。これ(画像15)はMonotypeの有価証券報告書です。表紙では大文字ですが、本文では大文字小文字表記になっています。

K: むりやりロゴの表記と揃えなくてもいい



画像14



画像15 モノタイプ「Annual Report 2012」より引用



大文字だけだと、怒鳴られている、内容によっては脅されている感じになることもあります。

MARI TASHIRO

むりやりロゴの表記と揃えなくてもいいということですね。日本の企業はちょっとそれにしぼられすぎている感じがします。

AKIRA KOBAYASHI



画像16

Open : 10:00 a.m. - 4:00 p.m.
Admission fee : Adult 500yen
※ Under 15 and high school students are

ということですね。日本の企業はちょっとそれにしぼられすぎている感じがします。

日本語の記号を混ぜて使うのはよくない

T: これ(画像16)は展覧会の新聞広告にあった例です。「Open」の後のコロなど、日本語の全角が残ってしまっているところがあります。「※Under 15」(15歳以下)の※印は日本語の記号なので、英語では使いません。

日本語の原稿に英語を上書きしたときに、日本語の記号がそのまま残ってしまっているケースもあるんです。実際にレイアウトをするときに注意して、そういうところを英語の記号に変える必要があります。

欧文記号の正しい使い方を知ろう

T: 仕事でリサーチをしていると、海外でつくられた英文、日本でつくられた英文をたくさん見ます。そういうときに日本でつくられる英文の傾向がわかってきました。ひとつが先ほどのすべて大文字、もうひとつは引用符の使いすぎです。引用符はかなりの割合であまり使わない方がいいのではないかと考えています。

たぶん、これ(画像17)は強調したいから引用符に入れたんだと思いますけど、わざわざ引用符に入ると、「ガウンって言うけど本当はどんな特殊なものなんだろう？」って思っちゃうんですね(笑)。

引用符には使い方がおもに2つあって、誰かが言った言葉をくくる場合と、自分はそういう言い方をしないけどあの人がそういうふうに使っているという場合。要する

画像17

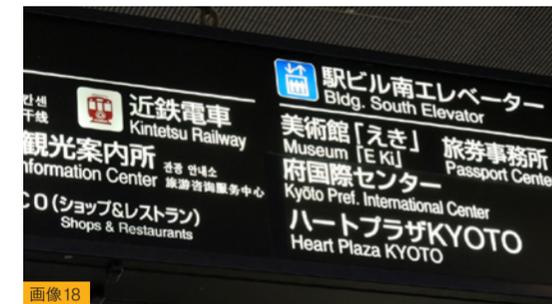
ロビー・レストランでのガウン及びスリッパのご使用をお控えください。
Please refrain from use of the "gown" and "slippers" in the lobby.

に、皮肉とか、その言葉から自分は距離を置きたいときに引用符を使うわけですね。
K: 「いわゆるなんとか」、つまり「あいつはそう言ってるけど俺はそう思ってない」みたいな使い方ですね。だから、皮肉引用符なんですね。

英語にはなっているが、意味が外国人には伝わりにくいもの

T: 「ハローダイヤル」は日本人でもすぐにごくどうサービスかわからないと思うんですが、外国人だったらなおさらわからないと思うんです。外国人なら問い合わせの電話番号があれば十分です。無料なのか、外国から電話しても大丈夫なのか、そういう視点の方が大事です。

これから多言語併記のテキストが増えてくると思うんですが、日本語とあわせようとすると、そういう傾向がありますね。併記といっても両方の言語を比べて読むわけではなく、自分になじみのある言語だけを見るわけですから、その言語に適した表記をする必要があるわけです。



画像18

たとえば、北陸新幹線の車内販売メニューの英語は、「北陸新幹線メニュー (HOKURIKUSHINKANSEN MENU)」になっているんですね。「北陸新幹線メニュー」というと、「メニューの中に新幹線がいくつかあるのかな？」と思ってしまいます。

私はよく「飾り英語」って言うんですが、外国人に伝えるという本来の目的ではなく、飾りに英語を入れるようなときにこういうケースがあります。メニューに食事やドリンクが書かれているならば、飾り英語ではなく、情報を伝えるためにサービスの内容を書いた方がいいと思います。

K: これ(画像18)は京都駅のコンコースですけども、右下の「ハートプラザKYOTO」がなんのスペースなのか、わからないです。

T: 「えき」が英語でもカギカッコに入っていてびっくりしました。「E KJ」も「駅」とは読んでもらえないかもしれないので、たとえば普通に「Station Museum」としてもいいのではと思います。ハローダイヤルと同じで、ただ英語に置き換えただけでは意味が伝わらないのです。



画像19

K:「JR L.」(画像19)。これは省略しすぎた例ですが、「L.」って何かわかりますか？
T:ここまで省略されているのは見たことがないですね。普通に「Line」と書く方がいいです。「みなとみらい」が長いので、まとめて書くとするなら、「JR, Tokyu&Minatomirai Lines」にするとか。

良い例

K:もちろん、良い例もあります。ぱっと見たときに「Left」が目に入ってきて情報の伝え方としては良い例ですね(画像20)。
T:強調のひとつの例です。ちゃんとした大文字の使い方です(画像21、DO NOTの部分)。
K:「危険」というのが強調されているわけですね。
T:こういう書き方(画像22)はヘッドラインスタイルといって、DとRと最後の単語のTが大文字です。前置詞と冠詞(ontoとthe)は小文字にします。
K:新聞の見出しでよくあるスタイルですね。ヘッドラインは見出しという意味ですけども、新聞のスタイルだからヘッドラインスタイルなんです。

まとめの前に

K:最初に出した、3つ文章を組んだ問題をもう一度見てみましょう(画像23)。
 一番上はMONOTYPEが大文字になっていますけど、普通は社名は大文字にせず、先頭だけ大文字にする。
 一番目と二番目の引用符に入った単語はくどいというか、皮肉引用符にとらえられがち。
 三番目が一番いい感じでしょうか？ よけいな強調とか考えないでストレートに普通に組んだだけでまともなものができる。
T:英語の文章のつくり方では、キーになる言葉を終わりの方にもってくることで、その言葉を強調できるので、引用符でさらに強調する必要はない。文章のつくり



画像20

CAUTION

スタンプ台が倒れる危険性がありますので、台につかまったり、寄りかからないようにご注意ください。

Please DO NOT hold on or lean on the table as it might fall down.



画像22

MONOTYPE provides "innovative" solutions focusing on "quality" and "reliability."

Monotype provides "Innovative" solutions focusing on "Quality" and "Reliability."

Monotype provides innovative solutions focusing on quality and reliability.

画像23

方で強調することもできるんです。

強調したい場合はイタリックにするという方法もあるんですが、あんまり使いすぎると効果がないので、本当に効果があるところだけ選んで使います。

K:「日本語で『品質』」を強調したいから英語でもカギカッコで囲んでください、そうしないと見た目が揃わない」という注文があったとしても、引用符を使わずに文章で表現できるんでしょうか？
T:たとえば、この文章で引用符にくっつけている言葉を全部イタリックにしたら効果が弱くなってしまうと思うので、強調したい語を後ろに置いて、普通にシンプルに処理した方がいいと思います。

まとめ

「日本語書体付属のローマ字で英文を組む

と読みづらい」(まとめ1)。ちゃんとした欧文書体を使った方がいいですね。記号用のローマ字には使えるけれども、文章を組むのには使えません。

「大文字の単語が文章中に入ると、そこだけ怒鳴っているように見える」(まとめ2)。大文字の単語が文中に入ると、文章のリズムやトーンが変わって、そこだけ怒鳴っているように見えます。リストならばよいかもしれませんが、文章組のときには大文字小文字の標準表記にしましょう。日本語のように姓・名の順番にしたいときは毎回出てくるとうるさいので、「名前は日本語の慣習にのっとって、姓・名の順にしています」という注を最初に入れておけば、毎回姓を大文字にする必要はありません。

「いつもロゴの表記どおりにする必要はない」(まとめ3)。文章にするのは情報を伝えるためであるという話。ロゴというのはある意味、シンボリックな図で見せる感じがある。それよりも文章中では読みやすさ、情報を伝えることが大事。形や個性を伝えるものではありません。

「英文の中に日本語の記号を混ぜて使うのはよくない」「欧文記号の正しい使い方を知ろう」(まとめ4、5)。※印、全角のコロン、波ダッシュなど。今日は例が出なかったんですけど、日本語ですみ付きパーレン【 】みたいな、見出しに使うようなカッコがあります。それを英語でも同じような形で使いたいと思って、ブラケット[]というカッコに置き換える方がいるんですね。ただ、英語のブラケットの使い方というのはどちらかというと、情報を補足するとき文中に入れたり、参考文献で日本語の書物があるときに日本語の書名をイタリックで書いて、そのあとにブラケットで英語のタイトルを入れたりするときに使うものなので、

見出しに使うという意味ではあわない。形が似ているという理由でブラケットを使うのはよくありません。毎回カッコが見出しにつくと落ち着かなくなるので、そういうときは見出しをボードにするとか、違う書体にして目立たせるとか、他の方法を考えた方がいいですね。

カギカッコの強調を英語でそのまま引用符に置き換えるのは、さっき皮肉引用符と言いましたが、「実際はそうではない」というニュアンスを醸し出してしまう恐れがあります。ちなみに、皮肉引用符というのは私たちがつくった言い方で、英語では「スケーア・クオーツ」といいます。「スケーア」は「脅し」とか、そういう意味です。

「英語になっているが、意味が外国人には伝わりにくいもの」(まとめ6)。日本語をそのまま英語にすると伝わりにくいものがあります。読む人に伝わるかどうか再確認しましょう。日本語独特の片仮名のサービス名をそのまま英語にしても伝わらないことがあります。

K:これからあと5年で東京オリンピックです。日本でももっと欧文の表示が増えてくるはずなので、今日お話ししたことを気をつけてほしいですね。
T:英語圏の人が見て違和感のないようなものが増えていくといいと思います。

欧文組版の参考図書

- 「欧文組版 組版の基礎とマナー」高岡昌生
- 「The Chicago Manual of Style」University of Chicago Press
- 「New Hart's Rules: The Oxford Style Guide」Anne Waddingham
- 「欧文書体 その背景と使い方」小林章

まとめ

1 日本語書体付属のローマ字で英文を組むと読みづらい

欧文の小文字の適度なデコボコは読む手助けになっている。付属のローマ字は「y座標」など記号的な扱いにふさわしい。

2 大文字の単語が文章中に入ると、そこだけ怒鳴っているように見える

英語の文章は大文字小文字が基本。強調のために、やたらと大文字を使うのは文章のトーンやリズムを乱す。姓名の表記も、リストの場合は姓を大文字にしてもよいが、文章中では大文字小文字の標準表記にするなど、場合に応じて変えるのがスマート。

3 いつもロゴの表記どおりにする必要はない

文章にするのは情報を伝えるため。ロゴはある意味シンボリックな扱いなので、文章中や表示パネルなどの場合には読みやすさを優先させる。

4 英文の中に日本語の記号を混ぜて使うのはよくない

形は似ていても、日本語と英語では使い方の違う記号があるので、ふさわしい記号を選ぶ。

5 欧文記号の正しい使い方を知ろう

ハイフンとダッシュの使い分けを知っておこう。日本語のカギカッコでの強調を英語でそのまま引用符に置き換えるのはやめよう。

6 英語になっているが、意味が外国人には伝わりにくいもの

日本語をそのまま英語にすると伝わりにくいものがあるので、読む人に伝わるかどうか再確認する。